

令和8年度全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

令和8年4月に小学6年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果が通知されましたので、以下にその概要をまとめました。本校では、この調査結果を活かして、児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育内容の充実や授業改善に繋げていきたいと考えています。

1 調査内容

- ・教科による調査（国語・算数）
- ・質問紙調査（学習意欲・学習方法・学習環境・生活習慣等に関するアンケート）

2 結果の概要と考察

【国語】

- ・本校の平均正答率は、全国・県平均値を下回っている。
- ・問題形式ごとの正答率を見ると、選択式、短答式、記述式のどれにおいても、全国・県平均値を下回っている。漢字の書き直し（短答式）と自分の経験と結びつけて考える（記述式）ことを答える問題では、無回答の割合が高かった。ただ、選択式の問題に関しては、全国・県平均値に近い問題がいくつかあった。
- ・領域ごとに見ると、「話すこと・聞くこと」については全国・県の平均値を下回ってはいるが、差は大きくなかった。ただ、「読むこと」に関しては、全国・県平均値を大きく下回っている。「読むこと」の領域に関しては、無回答の割合も高い傾向にあった。

【算数】

- ・本校の平均正答率は、全国平均・県平均値を下回っている。
- ・全体的に無回答の割合が高い傾向がある。「記述式」に関しては、全国・県平均値を大きく下回っていた。
- ・評価の観点ごとの正答率をみると、「思考・判断・表現」に関しては全国・県平均値を大きく下回っている。
- ・領域ごとに見ると、どの領域においても全国・県平均値を下回っている。ただ、昨年度下回った「図形」については、全国平均値に近い値となった。

【質問紙】

- ・各教科の「勉強は好きですか」という質問については、算数科に関しては肯定的な回答が多かった。ただ、国語科・外国語活動に関しては否定的な回答が若干多かった。
- ・授業中にICT機器を活用して、自分の考えをまとめたり、伝えたりすることに関して、肯定的な回答が多かった。本校では情報活用能力の育成を目指した授業研究を続けている。低学年からの積み重ねが児童の自信につながっていると考えられる。
- ・「毎日朝食をとっている」、「同じ時刻に起きている」に肯定的な回答が多く、望ましい生活習慣が身に付いていると言える。
- ・学校の授業以外に「1日あたりどれくらい読書をするか」30分程度読書をしていると回答している児童が多かった。ただ、まったくしないという児童も見受けられた。読書習慣を増やすためにも、毎週月曜日に設定している読書の時間を大切にし、図書委員会を中心とした「読書祭り」などのイベントを更に充実していく。

3 今後の教育活動・授業改善

○基礎基本となる学力の定着

- ・ドリル学習や小テストなどを活用し、基礎基本となる学力がしっかりと定着できるよう確認します。また、中学年以上に関してはデジタルドリルを活用し、児童の学習状況に合わせた問題を繰り返し解く機会を、授業で積極的に設けていきます。

○考えをもつ、伝える力の育成

- ・各教科の学習場面で、じっくりと自分の考えをもつ時間を確保します。その後、近くの友達や小グループで考えを伝え合う機会を多く設けます。話し方の指導やより効果的な伝え方の指導については、単元に応じて都度指導をしていきます。